

近年「体験型絵本」といって物語りの中に入り込み、読者が主人公になる絵本がたくさん出ています。今回は、そんな体験型絵本3冊を楽しみました。

えがないえほん 作：B・J・ノヴァク 訳：おともたけし 早川書房
この絵本には絵が一切ありません。ただひとつルールがあります。書かれている言葉はすべて声に出して読むことです。

まるまるまるのほん 作：エルヴェ・デュレ 訳：谷川俊太郎 ポプラ社
この絵本は、まるを触ったり、こすったりするたびにその動きに合わせて色とりどりのまるが生きているかのように動きます。

ぜったいにおしやダメ? 著：ビル・コッター サンクチュアリ出版
子どもたちの目の前に「ぜったいにおしやダメの赤いボタン」があります。そこに紫色のおばけのラリーが現れて、子どもたちに語りかけます。「ちょっとだけおしやいなよ」さて、みんなはどうする?



えがないえほんは、大人が言わないような言葉ははずかしそうに読んでるところがとても面白かったです。

絵本を使って、みんなでしりとり遊びをしました。中村翔子著／鈴木出版「しりとりのだいすきなおおさま」、tupera tupera 作／白泉社「おならしりとり」そして、1番の目玉は、巻物でできたしりとり絵本、さいとうしのぶ作／リーブル「しりとりしましょ!巻物えほんキット」です。なんとこの巻物絵本、全長8mもあるのです。「しりとりしましょ、はじめは㊦」のかけ声に巻物をくるくるまわしていくと…。順におもしろい絵が出てくるのです。子どもたちは、その絵を見ながら大きな声でしりとりを楽しんでいました。



心に残ったのは、しりとりのだいすきなおおさまです。帰ってから、この本の内容をお母さんにいっぱいお話ししました。

しりとりの巻物が長くてビックリしました。楽しかったので時間があっという間でした。

ほのほの



子育てがんばっています!

子どもも親も、笑って・泣いて・怒って、とても賑やかな山先家です。
2人の子どもは、近くに住む祖父母に毎日のように遊んでもらい、じいじとばあばのことが大好きです。
今しかないこのかわいい時期の子育てを、楽しみながら頑張っていきたいと思います。

祖父母：福田 法博、美貴子 子ども：翔太・隼太郎
父 母：山先 誠、有子 (市場)

郡中地区公民館での家庭教育学級

子育て真っ最中の新川、鳥ノ木地区の愛護班の保護者が、子育てで楽しかったこと、辛かったことなど、これまでを振り返り話合いました。

はじめに、子育てサポーターから現代の子育て事情について講話がありました。

- 核家族の増加による子育ての難しさ
- 子どもとの会話
- 子育てで辛かったことなど

その後、グループに分かれサポーターの進行により自由に話し合いました。

- ①子育てで楽しかったこと、心に残ったこと
- ②子どもとの会話
- ③子育てで辛かったことなど

途切れることなく話が弾み、内容の濃い有意義な会になりました。

子育てについて人と話す機会は初めてだったので、とてもいい時間になった。「今」という時間は戻らないので、楽しく子育てをしていこうと思った。

話を聞いて、みんなそれぞれ苦労しているんだな。自分だけではないという安心感で、気持ちが楽になった。

これからの子育てに生かしていきたい。今後、自分の子育ての方針が定まってきた気がする。愛情は常に与え続けていこう。



個別の相談や少人数グループの話し合いを希望される方は下記までご連絡ください。

連絡先

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ

☎982-5155 FAX.982-5156
〒799-3193 伊予市米湊820 (伊予市教育委員会社会教育課内)

おおひら保育所での3回の学習会

7/19
(木)

「足スタンプで遊ぼう」



絵本「あしがたずかん」を読んで、足形を見て動物当てをしました。
足の裏に絵具をつけて滑らないように紙の上を歩きました。年長の子もまたは小さいクラスの子もたちの活動を待っている間、しっかり順番を守っていました。
そして、自分たちの順番が来ると走らないように約束を守って楽しく活動しました。



11/9
(金)

「新聞紙で遊ぼう」



絵本「さつまのおいも」を読んで、新聞紙でサツマイモやキャンディ、帽子、服などを作って遊びました。その後、小さくちぎって落ち葉のように飛ばし、部屋いっぱい使って遊びました。その後、みんなで協力して、大きな袋に集め大玉転がしゲームをして楽しみました。



2/14
(金)

「親子で遊ぼう」

読み語りを聞いて親子で楽しむ

- 「だるまさん」…だるまさんのまねをしよう
- 「びよーん」…絵本の登場人物のまねをしてジャンプ☆
折り紙でバツ紙風船を折り親子で遊ぶ
- 「だめよだめよデービット」…本に出てきたお母さんのようにハグしよう
- 「ひよこのチャーリー」…飛び出す絵本を楽しもう



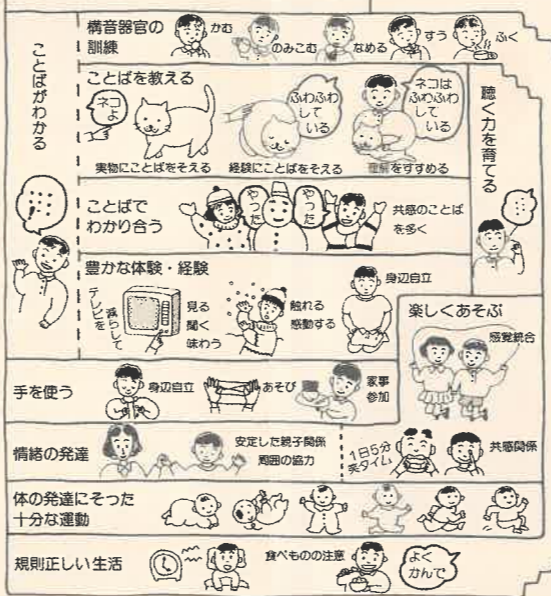
ダメなところに目がいきがちですが、親のかかかわり方で変わるかもと思うと安心しました。親が変わる努力をしたいと思っています。

ことばの発達について勉強になりました。これからも子どもとの会話を大切にしたいと思います。折り紙遊びも子どもと一緒に楽しんでよかったです。

講演

「子どものことばの発達
—上手な関わりが言葉を豊かにする—
伊予市子育てサポートグループ 岡本香澄

ことばはビルの最上階



「ことばをはくむ」中川信子著より

ことばが発達する土台には、睡眠、食事、運動、情緒、遊びなどたくさんの要素があります。親子で楽しく体験することで、ことばが増えてきます。



子育て悩み相談 「親子関係をつくらう」

親の言うことを聞いてくれない。
駄々をこねてすねる。
すぐに感情が高ぶり、攻撃的になる。



親子関係の形成

赤ちゃんはおなかがすいたとき、痛いとき、むずがゆいときなど、困ったときに泣いて親を求めます。求められた親は、抱っこしたりトントンしたりしてあやす。その行為で、赤ちゃんは機嫌を直す。これを繰り返していると、幼児期になって困ったときは、言葉で親に伝えれば何とかしてくれるという親子関係が形成され、親に助けを求めるようになる。しかし、泣いても困ったと伝えても、親が対応してくれなければ、次からは困ったことを伝えなくなる。そうすると、子どもは、攻撃的になったり寝転んで泣いたりして親を困らせようとする。



そんなときは…時間をかけて親子関係を修復する。

普段から、楽しく一緒に遊ぶ、親子でおもしろいなあという体験をする。その後、「すべり台で遊んでおもしろかったね」「母さんが落ちて、痛かったよ〜」など、おもしろかったことや子どもが喜びそうなことを話題に、親子で話をする。



そして、抱っこする・体に触れてさする・ほめる・見つめ合ってニコッとする・手をつなぐなど、スキンシップをとることで、脳の中にうれしくなるホルモンが分泌される。

そうすると…親も子どもも話を聞こうとする。

だめなときは我慢ができるようになる。こうなると、親子の愛着関係が成立し、心が穏やかになり安定してくる。



上灘保育所・みんなるでの学習会

11/7水

絵本であそぼ！！

9/29土

王様のかんむりを作ろう！

みなさんは、アンデルセン童話をいくつか知っていますか？親指姫、マッチ売りの少女、みにくいアヒルの子、それからあの大ヒット映画「アナと雪の女王」も実は、アンデルセンの「雪の女王」というお話をモチーフに作られたものなのです。そこで、アンデルセン童話の「はだかの王様」のお話を聞いて王冠づくりに挑戦しました。

完成後には、王冠をかぶりパレードを行いました。たちまち会場はカラフルな王冠をかぶったかわいい王様でいっぱいになりました。
このように、絵本の世界を体験を通して楽しむのもいいですね。



孫との王冠づくり、2人で協力しながら孫も一生懸命取り組んでいました。家では、ここまでできないので、いい時間を過ごすことができました。

